



環境報告書 2010

Environmental Report



■ JPFグループ環境報告書 2010 目次

会社内容	2
ご挨拶／環境方針	3
環境配慮商品	4～5
環境実績	6～9
環境マネジメント	10
環境コミュニケーション活動	11～12
編集後記	12

■ 本報告書の概要

報告書対象期間

2009年1月1日～12月31日
 (内容の理解を助けるため、一部で直近の活動も記載しています)

報告書対象組織

日本パワーファスニング株式会社及び連結子会社
 (近江ニスコ工業(株)、蘇州強力五金有限公司(中国))
 但し、近江ニスコ工業(株)は本社及び滋賀工場のみ。一部項目は個々に対象範囲を記載しております。

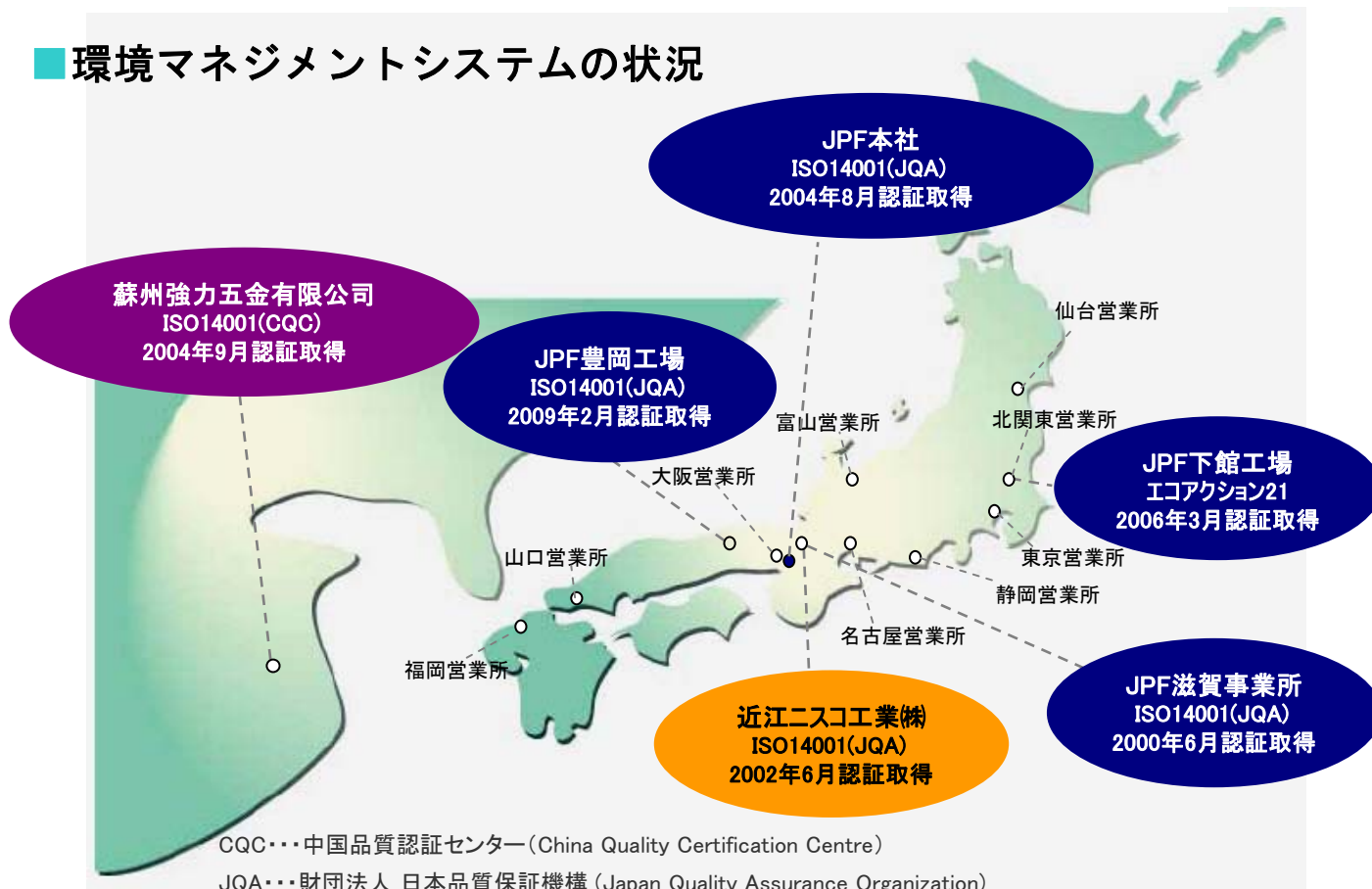
発行日

2010年7月13日

参考ガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン (2007年版)」

■ 環境マネジメントシステムの状況



■ 会社内容 (2009年12月末)



JPF 日本パワーファスニング株式会社

本社所在地：大阪市北区大淀中1丁目1-90

設立：1964年4月

資本金：2,550百万円

事業内容：建築用ファスナー及びツールの製造・販売

代表者：代表取締役社長 土肥 雄治

従業員数：191名

営業拠点：仙台・北関東・東京・静岡・名古屋・富山・大阪・山口・福岡

事業所：滋賀

工場：下館・豊岡



(プレハブ住宅向け各種住宅金物)



プレハブ住宅や金属及びコンクリート建築に使用されております



(コンクリート、各種ボード用ファスナー)



(鋼材用ファスナー)

nisco 近江ニスコ工業株式会社

本社所在地：滋賀県野洲市六条1018番地1

設立：1993年7月

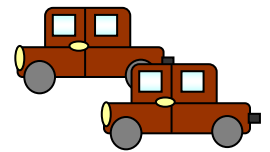
資本金：200百万円

事業内容：自動車・家電等部品の製造・販売

従業員数：89名

営業拠点：東京・名古屋・滋賀

工場：滋賀



(自動車・家電用ファスナー)

SJPF 蘇州強力五金有限公司

本社所在地：中華人民共和国 江蘇省太倉市

設立：1993年10月

資本金：11,400千USドル

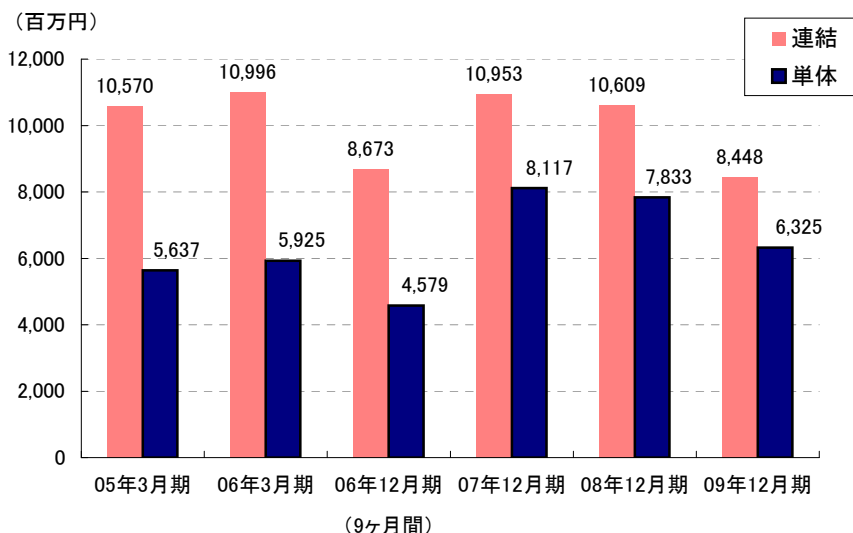
事業内容：金属製品の製造販売

従業員数：219名

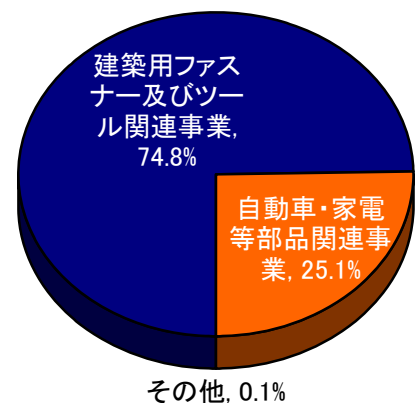


■ 売上高及び事業別売上構成比

売上高



事業別売上構成比



■ ご挨拶

ここに、第5回目の「環境報告書」を発行するにあたり、ご挨拶申し上げます。

2008年に京都議定書による温室効果ガス削減の約束期間が始まり、様々な対策が進められてきましたが、2009年9月には我が国の目標として、温室効果ガス排出量を2020年までに1990年比で25%削減することが表明され、温室効果ガスの削減は企業の社会的責任として、避けては通れない問題となっています。

当社としましては事業活動から発生する環境負荷の削減と環境配慮商品の拡販という2つの側面から環境問題には取り組み、省エネルギーを推進する生産体制の確立と価値ある製品づくりを行なっております。

2009年にはねじ業界初となる「カーボンフットプリント」表示製品の販売や住宅関連事業の成長分野である「ソーラーパネル組立事業」をスタートし、今後は更なる環境対応型のビジネスモデルを構築していきます。

また、社員一人ひとりの環境保全に対する意識の向上を図り、ステークホルダーの皆様からの信頼を得られるよう社会貢献活動、地球環境保全活動を推進してまいります。

今後とも、当社グループへの一層のご支援ご指導を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

日本パワーファスニング株式会社

代表取締役社長 工 肥 雄 治

■ 環境方針

基本理念

”伸びやかで豊かな企業人を育む環境づくりを目指し、オリジナリティ溢れる技術をベースに製品を開発し、顧客の信頼を得るとともに、社会の発展に貢献する。”という企業理念に基づき、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、企業活動のあらゆる面で環境の保全に配慮して行動します。

基本方針

日本パワーファスニング株式会社(JPFグループ)は、基本理念に基づき次の活動を行います。

- ① 私たちの事業活動、製品やサービスが環境に与える影響を的確に捉え、環境配慮商品の拡大及び環境負荷の削減に努めると共に、エネルギー問題やCO₂削減に貢献できるよう、事業活動の発想と行動を環境対応型に変身し、ビジネスモデルを構築していきます。
- ② 私たちは地球環境の保全を推進するため、技術的、経済的に可能な範囲で各部門毎に環境目的及び目標を定め、実行し、定期的に見直しを行い、継続的改善を推進します。
- ③ 私たちは当社の環境側面に関連する法律、規則及び協定を順守すると共に環境事故の予防を進めることにより社会的責任を果たします。
- ④ 私たちは地球と共生するため、環境教育及び啓発活動を実施し、当社の全従業員及びグループ会社に環境方針の理解と環境保全に関する意識の向上を図ると共に関係委託業者、契約業者へも環境方針の理解と協力を求め、さらに社会貢献活動を推進し、地域との交流を図ります。

■環境配慮商品 -2009年新製品-

■～太陽光発電 {太陽電池モジュール(ソーラーパネル)}～

ソーラー発電は、太陽光を利用し、そのエネルギーを直接的に電力に変換する発電方式です。また、再生可能エネルギーの一種であり、太陽エネルギー利用の一形態です。

昼間の電力需要ピークを緩和し、温室効果ガス排出量を削減できるなどの特徴を有し、近年の競争によって性能が向上し、設置や保守が容易である等の利点や、低炭素社会の成長産業としての将来性を買われ、需要が拡大しています。

そこで、当社では、株式会社カネカの指導の下、太陽光電池モジュールの組立ラインを立ち上げ、2009年12月10日に株式会社カネカより加工委託された製品についての※JETPVM認証に製造工場として登録され、2010年1月から組立生産を開始致しました。

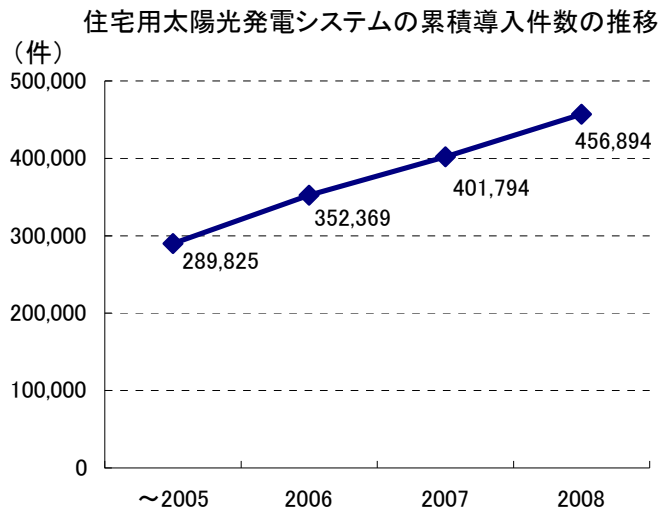
品質確保された太陽電池モジュールの安定供給はもちろん、当社の得意とする組立用ファスナーの開発や信頼性のある取付金具の太陽光関連事業分野への拡大にも積極的に取り組んでおります。

※JETPVM認証

財団法人電気安全環境研究所が、太陽電池モジュールのモデル毎に企画適合性試験、製造工場の品質管理体制等の確認を行い、認証を受けた太陽電池モジュールにJETPVM認証マークを表示して製造・出荷する制度です。



太陽電池モジュール(瓦一体型太陽電池)



出典：一般社団法人 新エネルギー導入促進協議会
「平成20年度住宅用太陽光発電システム導入状況に関する調査」

■ ～カーボンフットプリント表示製品の販売開始～

日本パワーファスニングは、国内生産の主力製品であるドリルねじ51品目を「カーボンフットプリント」表示製品として販売を開始致しました。

カーボンフットプリントとは、その名の通り「炭素の足跡」を意味し、製品・サービスの原材料調達から廃棄・リサイクルにいたるまでのライフサイクル全体を通して排出される温室効果ガスの排出量をCO₂に換算して、当該製品およびサービスに簡易な方法でわかりやすく表意する仕組みをいいます。

当社は、このCO₂排出量を把握することにより、今後の削減目標値の設定と結果の判定を明確にすることを目指しております。

将来的には、購入する側もより低排出量の製品を選択することで、CO₂の排出量低減に貢献できるなどのメリットもあります。

このCO₂排出量の「見える化」は、ネジ業界初の試みであり、各方面から大きな注目を集めております。

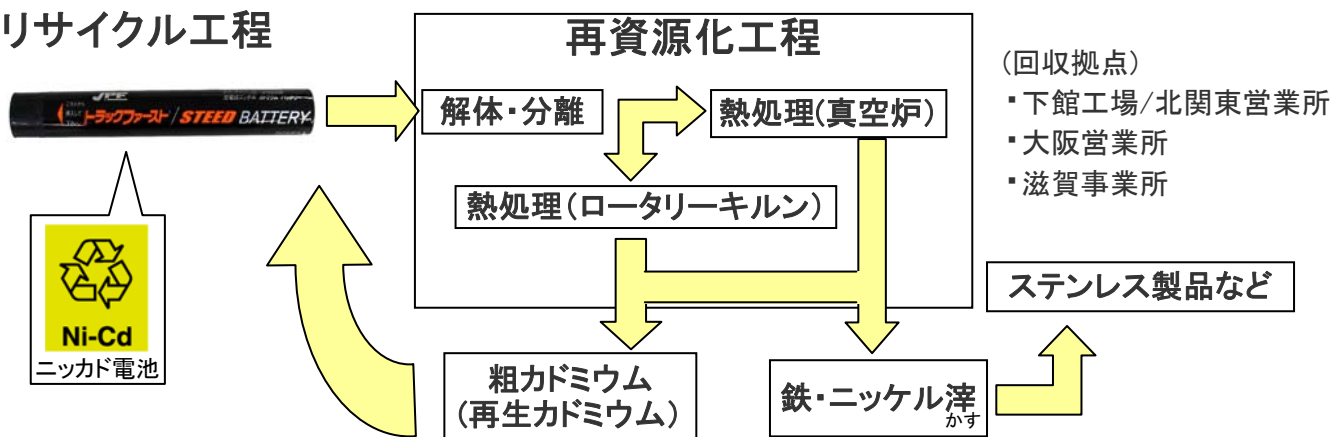
当社といたしましては、2009年10月19日以降の下館工場梱包分を皮切りに継続したデータ収集により、表示製品を増やしていきたいと考えております。



■ 使用済バッテリーリサイクルの推進 「各建設用ツール」

当社は有限責任中間法人JBRC(旧:小形電池再資源化推進センター)に加盟しており、当社商品であります「トラックファースト(建設用ツール)」の使用済みバッテリーの回収を行っております。2009年は3拠点で27本回収致しました。今後もこの活動に力を入れ、リサイクル推進を続けてまいります。

リサイクル工程



■ 規制遵守状況

JPFグループは、環境関連の法令だけでなく様々な法令遵守に務めています。また、地域住民からの環境に関する苦情は一切ありません。

■ 環境実績

■ 環境目的一覧表

JPFグループでは、国内のJPFグループの環境実績を「本社、滋賀、近江ニスコ(以下近江)」の環境目的を基本として、各拠点、各部署別に事業内容に応じた環境目標を設定し評価をしております。ここでは、その環境目的を基準に国内グループで合算した場合の環境実績を掲載いたします。

重点課題	環境目的	評価	2009年環境実績 (国内JPFグループ)
環境配慮商品の拡大及び環境対応型商品への展開	地球環境に配慮した商品の開発・販売を行う。	○	新規ねじ商品「六価クロムフリー」率: 94%
物流の合理化	グループ全体の物流効率を考慮し、合理的な物流方法を検討、実施する。	○	積載効率を考えた運搬→物流費の削減
法規制の順守と環境事故の未然防止	変化する法規制の対応と環境事故のリスクを認識し、未然防止に努める。	○	環境教育、eラーニングでの周知。順守状況に問題なし
省資源・省エネルギー	資源・エネルギーの効率的な使用による削減 (各部門にて前年度比にて削減目標設定)	○	電気: 前年比21.4%減 全エネルギー使用量: 72,541.6GJ 前年比25.6%減
廃棄物の削減	5Rの推進による廃棄物の削減 ①Reduce: リデュース...ごみを減らす ②Reuse: リユース...再使用する ③Recycle: リサイクル...再資源化する(サーマル・マテリアル) ④Return: リターン...購入先に戻す ⑤Refuse: リフューズ...ごみを買わない、もらわない (各部門にて前年度比にて削減目標設定)	○	グループ計: 146.6トン 前年比21.9%減 本社・滋賀・近江: 前年比11.6%減
環境活動のJPFグループへの展開	環境マネジメントシステムの豊岡工場への展開	○	2009年2月に豊岡工場ISO14001認証取得 JPFカーボンフットプリントでCO2排出量の把握が可能
社会貢献活動の推進	各地域での環境保全活動の積極的な参加にて、活動の輪を広げる	○	びわこ清掃、クリーン大阪、各地域での地域清掃に参加

評価はグループとして。○: 目標達成 △: 一部分のみ達成 -: 比較なし

近江ニスコの取組み ■ LED蛍光灯の導入

近江ニスコ工業(株)では、環境に配慮した事業活動の展開方策の1つとして、2010年5月に工場内の現在設置の水銀灯をLED蛍光灯に入れ替えました。

省資源化活動の推進、環境負荷の低減を図ることを目的としております。



工場の取組み ■ 水使用量の削減 (下館工場)

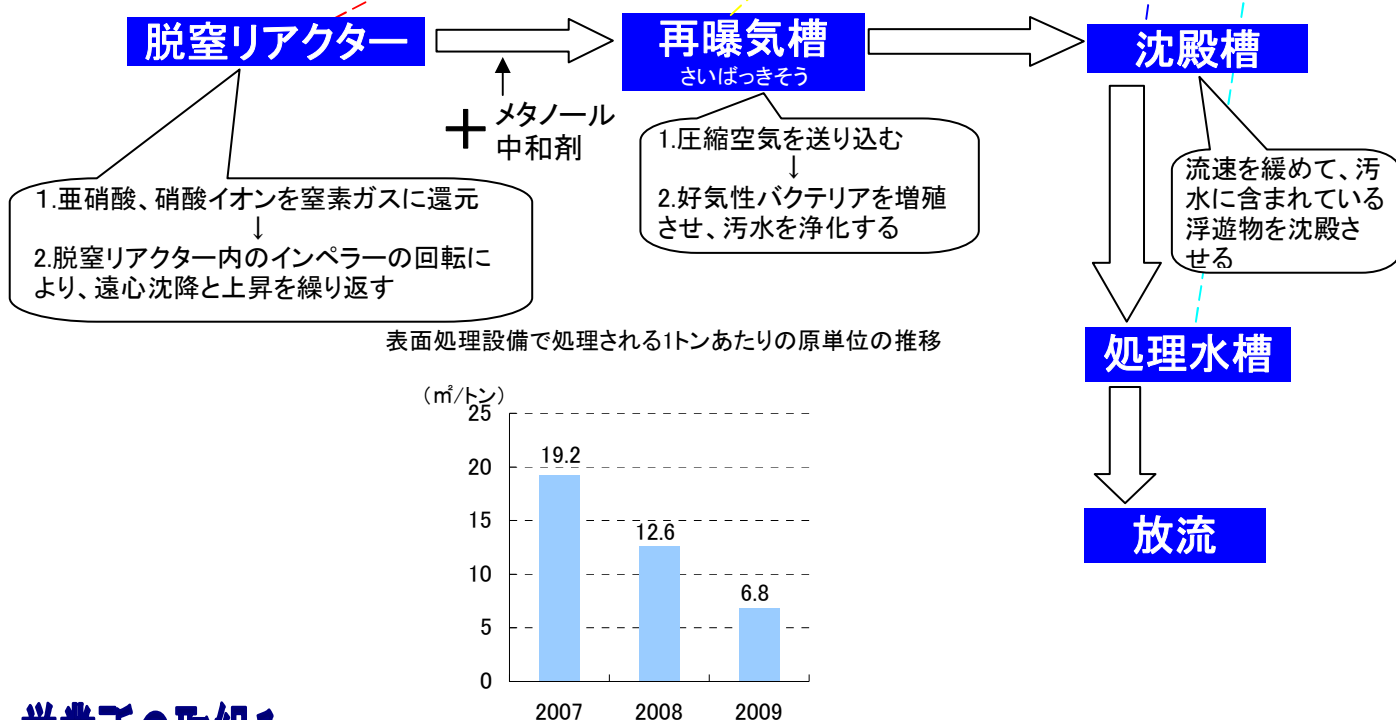
下館工場では、表面処理ラインの稼働が増え、水の使用量が増加したものの、表面処理設備で処理されている処理量1トンあたりの原単位で換算した比較では、2008年の12.6トンから2009年の6.8トンと約46%削減いたしました。

これは表面処理ラインの処理量は増加しましたが、工程内の改善により使用量が減少した事と昨年導入いたしました硝酸性窒素の処理設備の稼働による結果です。

下館工場では、水の使用量を決めて、水道のバルブを調整するといった活動を行っております。



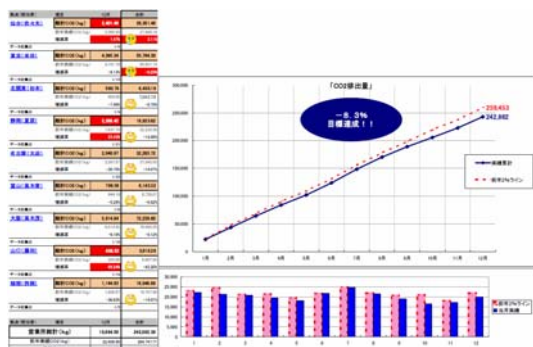
硝酸性窒素除去設備



営業所の取組み ■ CO₂排出量の削減 (電力、ガソリン、灯油、燃えるごみからの)

各営業所では、2007年の4月より営業所及び社有車から排出されるCO₂排出量の把握を始めました。その数値を本社で収集し、結果を掲示版に掲示しております。

営業所によって削減量に差はありますが、各営業所で自らの営業所が排出する環境負荷を認識することにより、環境に対する意識を高めることも目的としております。



2009年目標: 前年比2%削減



2009年実績: CO₂排出量242.86トン

前年比: 8.27%削減

※9拠点中目標を達成した営業所は、7拠点(前年より4拠点増加)でした。

2010年目標: 前年比2%削減

■ 地球温暖化防止

■ エネルギー使用量

国内JPFグループ全体のエネルギー使用量の把握は2008年より行いました。ここでは、2009年の実績と個別のエネルギー使用量の実績及び取組みを掲載いたします。

■ エネルギー使用量(GJ)

2009年	
昼間電力	53,000
夜間電力	5,553
ガソリン	2,736
灯油	2,733
LPガス	8,519
合計(GJ)	72,541

■ 電力使用量の削減 (蘇州強力五金有限公司は除く)

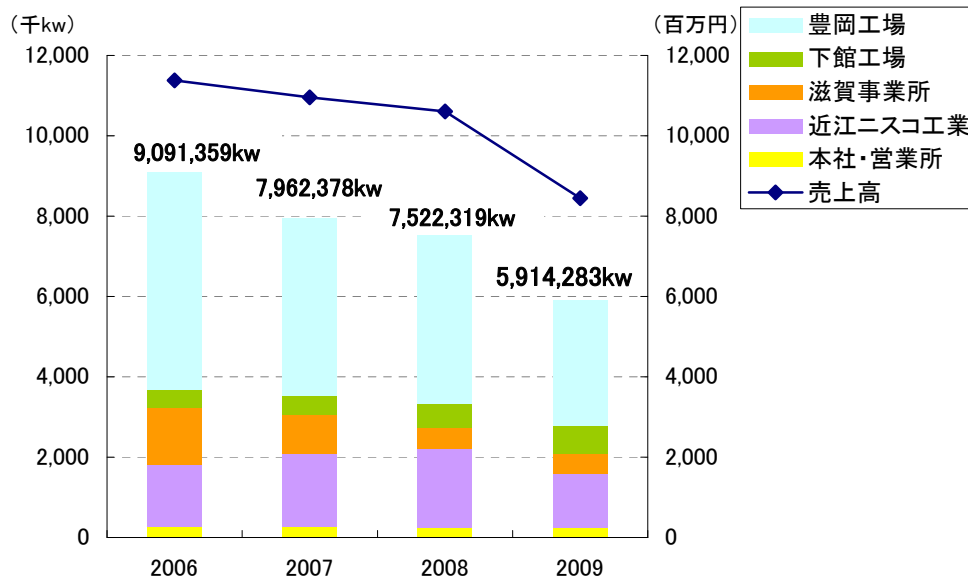
JPFグループではエネルギー使用量の大半を占める電力使用量の削減について2005年よりデータの把握を行い、前年比2%削減を目標として取り組んでおります。2009年も引き続きクールビス・ウォームビズ、定時退社日の取組み等により21.4%と大幅な削減となりました。

目標 : 電力量 前年比2%削減

実績 : 21.4%削減

■ CO2排出量(トン)

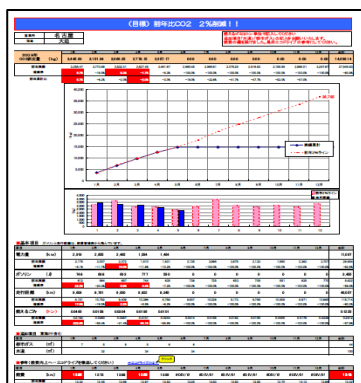
2009年	
昼間電力	2,950.3
夜間電力	332.1
ガソリン	183.6
灯油	185.4
LPガス	503.3
合計(トン)	4,154.7



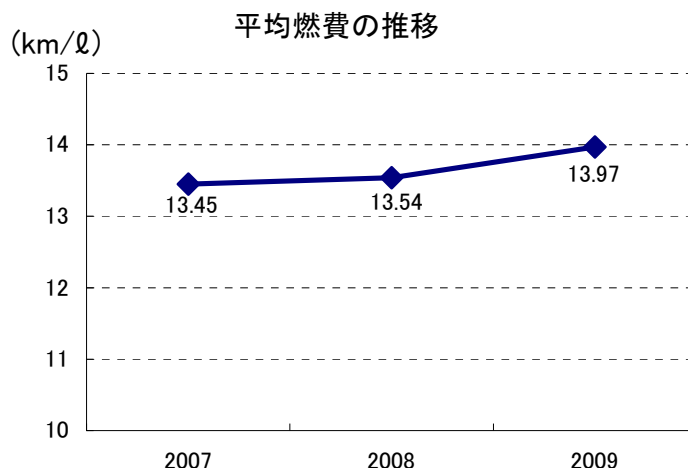
■ ガソリン使用量の削減 ~エコドライブの推進~

ガソリン使用量の削減のために、「エコドライブの推進」を行っております。

その結果、ガソリン使用量が、2008年: 78,421ℓ、2009年: 73,716ℓと前年比6%の削減となりました。



↑ 環境データ記録表: 前年オーバーだと赤く表示される仕組み



■ 廃棄物の削減

JPFグループではリサイクルルートの確立や5Rの推進によって廃棄物を削減しておりますが、営業所を含めた排出量の把握は2008年より行いました。

ここでは、2009年の国内グループ全体の廃棄物排出量と個別の取組みを掲載いたします。

■ JPFグループ全体 廃棄物排出量

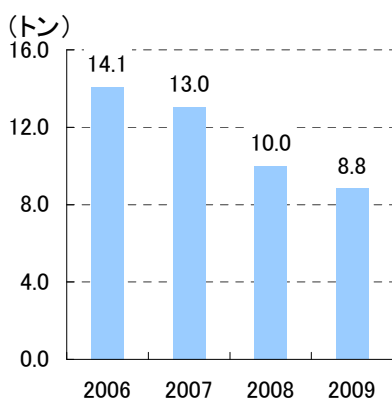
2009	
滋賀地区	6.3
近江ニスコ工業	2.2
本社	0.3
豊岡工場	110.9
下館工場	3.3
営業所	2.7
SJPF	20.9
合計(トン)	146.6

■ 本社・滋賀・近江

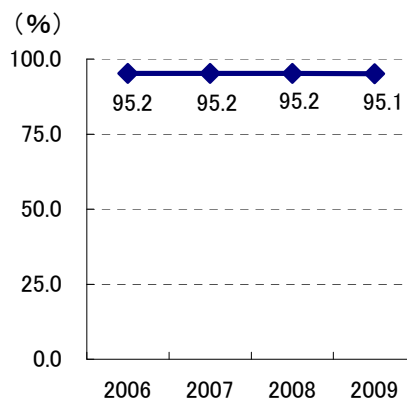
目標 : 廃棄物 前年比3%削減

実績 : 11.6%削減

■ 廃棄物排出量の推移



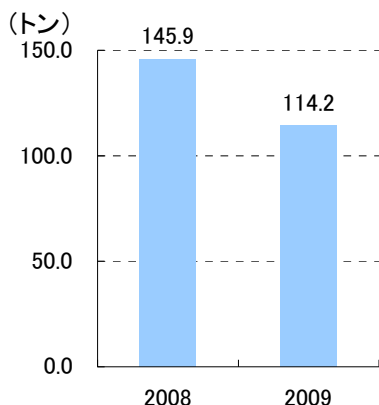
■ リサイクル率の推移



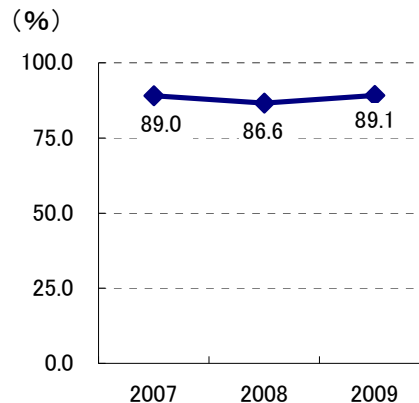
■ 豊岡工場・下館工場

実績 : 21.7%削減

■ 廃棄物排出量の推移

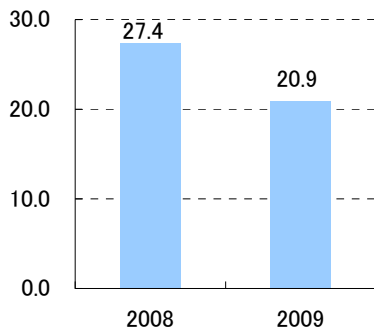


■ リサイクル率の推移

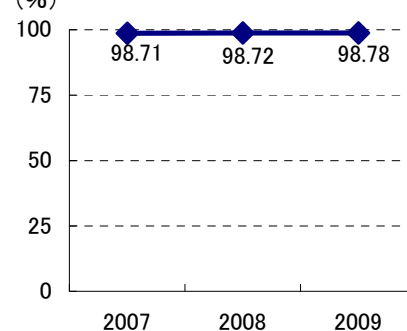


■ 蘇州強力五金有限公司(中国)

(トン) ■ 廃棄物排出量の推移



(%) ■ リサイクル率の推移



■環境マネジメント

■JPFグループ 改善事例発表大会

年1回、地区予選を勝ち抜いたQCサークルの発表の場として「オールJPF 改善事例発表大会」を開催しております。2010年は10チームが出場し、今年初めて中国の蘇州強力五金有限公司が参加いたしました。

環境の取り組みとしては、豊岡工場 ソーラー製造部が、環境配慮製品で紹介した「太陽電池モジュール組立生産」の立ち上げから、JETPVM認証の取得・初出荷までの取組みを社内、社外の方々に協力いただいたことに感謝の念を含め、発表いたしました。数々の難問題を解決して立ち上げたソーラー事業部の活動に今後も期待です。

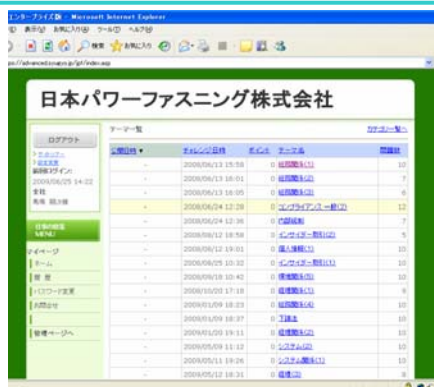


■環境教育

環境教育として、豊岡工場にてISO14001認証取得のための環境内部監査員教育を行い、その活動の結果、2009年2月にISO14001認証取得いたしました。

新入社員に対して、環境に配慮した経営の基本事項の教育を行っております。また、管理職を対象として、eラーニングでの周知を図っております。

■eラーニング(管理職対象)



環境問題の他、コンプライアンスに関する問題や経理、総務関係の問題も出題しております。



■リスクマネジメント (消防訓練)

本社地区では、2009年3月12日に梅田スカイビルで行われた消防訓練に参加し、放水や煙中歩行の体験を行いました。



■環境コミュニケーション活動

■地域貢献活動

JPFグループでは、環境と地域貢献を考え、従業員が積極的に地域の環境活動に参加しております。

■びわ湖清掃活動(5月～7月)

毎年恒例の「びわ湖ごみゼロ大作戦」には、44名が参加いたしました。その他にも「びわ湖の日清掃活動」や各従業員が地元の清掃活動に参加しております。



■クリーンおおさか2009(11月)

本社地区で毎年参加している「クリーンおおさか」には、22名が参加いたしました。



■工場団地内の清掃活動(豊岡工場)

豊岡工場では、従業員の皆さんとご家族で工場団地内の清掃活動を行いました。

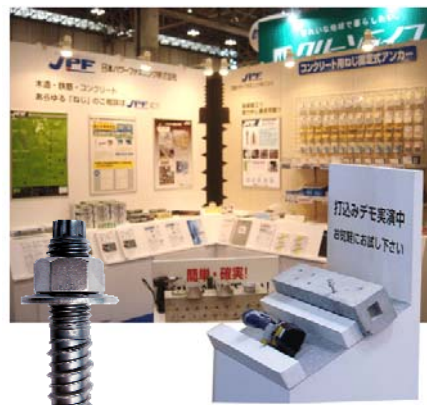


■ 展示会にて環境配慮製品を展示

当社の認知度アップと市場拡大、製品PRのため、毎年展示会に出展しております。

2009年は、8月に幕張メッセで開催された「JAPAN DIY HOMECENTER SHOW 2009」と11月に東京ビッグサイトで開催された「Japan Home and Building Show 2009」に出展いたしました。

製品PRでは、環境配慮製品である「タップスター」「エコテクス」「サスガード表面改質処理」も展示し、特にタップスターは実演デモを行うなど、当社の環境配慮製品の知名度拡大に努めております。



クロムフリードリルねじ



タップスター

■ 環境情報交換会

湖南・甲賀環境協会での環境情報交換会において、当社は、カーボンフットプリントについての説明を行ったところ、非常に大きな反響がありました。



■ 編集後記

遅くなりましたが、環境報告書を発行することができました。

本報告書は、2006年に初めて発行してから、年々情報量は増加していると感じております。その為、全ての方にご理解いただけるよう、分かりやすくお伝えすることを心掛けました。

本報告書がきっかけとなり、JPFグループ内だけでなくグループ以外にも環境活動が拡大していけば幸いです。

次年度もより充実した内容にしていきたいと考えております。

最後までお読みいただきありがとうございました。

(管理本部 総務部 総務課)



【問い合わせ先】

日本パワーファスニング株式会社

管理本部 総務部 総務課

TEL : (06)6442-0631

FAX : (06)6451-9951

URL : <http://www.jpf-net.co.jp>